

## ドキュメントイメージング業界と IT

ドキュメントイメージング業界の電子文書管理のエキスパートは、災害時のリカバリについて重点を置いています。企業のマネージャはそうではないのが現状です。IT 投資においても、予定としては検討されていないことに気づきますし、他への投資との兼ね合いがあることはこの不況下においては仕方のないことかもしれません。

私どもは依然紙媒体に対し厚い信頼を持っています。銀行に預けるお金のよう、コピーやプリントアウトしたものを自身の引き出しに収めることに安心しており、データとして保存するよりも“形”として残るものに意味を感じています。

ですが、ある悲劇によりその信頼は泡となり消えてしまいます。2001年9月11日の米国で起きたテロ事件です。ウイルス、ハッキング、システムバグ、人為的損害、天災などに対するシステムセキュリティは万全であり、かつデータセンターを別を持つなどで、ある程度のデータは被害を免れることはできました。しかし、多くの企業は、契約書などの重要書類はほぼすべて“紙”であり、そのほとんどは消失してしまいました。

このような背景から、プリンタをコアとしたネットワークソリューションと文書管理に精通する人材を輩出することが目的である CompTIA 認定資格「CDIA+」は、現在急速に認定者が増えています。CDIA+がスタートしてから、すでに 3300 名以上の方が取得されました。

プリンタは、各企業の部課毎に欠かさず 1 台は利用されているものです。このベースに新たなネットワークソリューションという付加価値をつけることは、多くの SI 企業に対抗できうる IT 社会に対しての継続的なイニシアチブ保持につながります。又、危機管理も一つのビジネスとなる時代です。単なる紙媒体のデータ化ではなく、あらゆる危機を想定した提案を、ドキュメントイメージング業界は発信できるメリットがあります。

上記のような提案を行うまでには、社内での“スキル整備”が必要になります。リコー・ホンコンでは“トータルソリューションプロバイダ”をめざしている好例が公開されています。現在 7 拠点のサービスセンターを持ち 750 名の従業員のうち、110 名がセールス、330 名がエンジニアとして活躍しています。リコー・ホンコンでは主にエンジニアを対象に A+、Network+の取得を義務付けています。

ネットワークソリューションを提案する上で必要な知識として、今現在利用されているインターフェイス=PC の知識や活用能力、それに問題解決能力をまず身につけます。その後、プリンタと繋げているあらゆるネットワークの知識をつけ、様々なプリンタネットワーク環境におけるサービスをワンストップで対応することをめざしています。セールスもそれら知識を取得することで、役割である第一切り分けでの迅速な対応と、顧客エンジニアとの対等な立場でのコミュニケーションを可能とします。

リコー・ホンコンは、実績として 2002 年春現在、182 人がすでに A+取得（テクニカルスタッフの 50%以上は取得済）し、82 人が Network+を取得しています。現在も継続的に取得支援をしており、最終的なステップへの足場固めをしています。

## A+・Network+・CDIA+とドキュメントイメージング業界

CompTIA 認定資格は、ドキュメントイメージング業界を含む IT 業界内によりファンドが積み重ね、業界内で調査・作成されるものです。CompTIA という業界団体そのものは、皆様が集まる場の提供と事務局的作用、それに業界内で作成された認定資格の普及啓蒙活動と一定の基準に達した方への認定が活動内容になります。つまり“実務で問われている能力を忠実に表したもの”が CompTIA 認定資格になります。

CompTIA 認定資格「A+」において、継続的なアップデートと試験の信頼性保持のために活動を行う“CompTIA A+ Advisory Committee”には、ドキュメントイメージング業界から、HP、Canon、Xerox、Fujitsu が活動を行っており、それに 2003 年 1 月から Ricoh が参加を表明致しました。

Minolta は、米国での情報を見る限り、Hewlett-Packard、Apple、IBM、Toshiba などと同様各個人及びサービスセクションにおいて“required(必須)”か“recommend(推奨)”の認定資格として活用されているようです。

「Network+」については、Canon と HP がすでに Advisory Committee に参加をしており、Cisco などのネットワーク機器メーカーや Microsoft などの OS ディストリビュータの立場ではなく、“現場”での実務能力として必要なスキルの反映に大きく貢献しています。

2002 年 12 月現在、まだ日本語配信はされておりませんが、「CDIA+」はドキュメントイメージング業界に特化した、プリンタをコアとしたネットワークソリューションと文書管理に精通する人材を輩出することが目的の認定資格です。インターフェイス=PC の知識、ネットワーク環境の知識、そしてそれらを含めたソリューション提案の知識の指標として開発されています。試験作成には、以下のメンバーがいらっしゃいます。

@doc	Bell & Howell	Canon USA
Compaq	Cornerstone Imaging	Cranel
Diamond Head Software	Document Technologies	Eastman Kodak
FileNet	Fujitsu	IBM
Imaging 501	IMNET Systems	Kofax Imaging Products
Lava Systems	Law Cypress Distributing Company	Lotus
Optical Laser	Optika Image Systems	Paperclip Software
Plasmon Data Systems	The Rheininger Group	Ricoh Corporation
TechData Corporation	Xerox	

## まとめ

ドキュメントイメージング企業と SI 企業の大きな違いは、プリンタという“ハード”を持っていることにあります。この必要不可欠なハードをコアにし、時代ニーズである“ネットワーク”“セキュリティ”というキーワードを強みにした企業体質の強化・ソリューション提案は、業績に対し大きく貢献するものと思われまます。